

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	(株) ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 虹の森(1F/2Fユニット合同)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成25年11月26日	評価結果市町村受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvoCd=2296300011-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で入居者様が出来る事を実践して頂き達成感を味わって頂いている。例えば掃除、食事作り、洗濯物たたみ、畑仕事等行っている。また季節感を感じて頂けるよう食事、散歩、ドライブ、イベント等計画を立て、入居者様に参加して頂いている。地域との交流も多く保育園児による慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習、町民、民生委員さんの施設見学会等実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古式ゆかしい小國神社、近代的なアクティ森…、今も昔も“遠州の小京都、としてかぐわしさを放つ町に事業所はあります。積み重ねた実績をもって本年度は理解と認知度を深めるべく、地域に向けた発信に力を入れています。民生委員の定例会に出向いて事業所訪問を企画したり、折り込み広告を入れ施設見学会を実施した結果、訪れた人からは「明るい」「きれい」皆が落ち着いている」などの評価が聞かれ、改めて求められる役割の重みを感じています。受け身の生活ではなく自立支援を目指し、毎日の買い物や食事作り、掃除、ラジオ体操や散歩が習慣化され、長期利用者も機能維持できていることが職員の誇りとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修を設けて理念を共有している。朝の申し送り時理念を声に出して読んでいる。理念を書いた用紙をカードケースに入れて携帯している。	一日の始まりに理念を読み上げることで、職業人として気持ちの切り替えを促しています。また意識の高まりをねらいとして、夕方の申し送りでは振り返りの機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事を地域の方々にチラシを配っている。	秋祭りでは焼きそばやポン菓子と、模擬店で盛況でした。民生委員による紙芝居、大正琴で活気が生まれ、ボランティアの輪も広がっています。中学生の職業体験、高校生の実習ではその後の交流も深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の慰問、中学生の福祉体験、高校生の実習の受け入れは継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々に出席して頂き実情、ケアサービス等を伝えている。希望があればレク等の参加をして頂いている。	年6回が定着し町役場、自治会、家族や利用者の出席があります。「変化なく落ち着いて生活できている」と家族から安心の声が聞かれ、会議の後には参加者も交えおやつ作りを実施することもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1～2回市町村担当者に実情、ケアサービスの取り組みをお伝えし運営推進委員会にも出席して頂いている。	介護保険課へは積極的に向かい、相談にも快く応じてもらえる関係を築いています。3ヶ月ごとに介護相談員2名の訪問があります。話を聴いてもらうことでひとつの安らぎとなり、記録は職員にも共有されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠、身体拘束もしていない。	内部研修後、毎日テーマを決めてケアに取り組んでいます。目標を設定することによって気づきが生まれ考えも深まっています。日常的に発してしまう「ちょっと待ってね」は余裕がないと出てしまうため、言葉かけを工夫しようと話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は設けてはいないが世間で話題になった時は職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様のご理解、納得して頂けるよう時間をかけて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でも出された意見を話し合っている。 アンケートの依頼を予定している。	運営推進会議が率直な意見交換の場となっていて、「職員の名前がわかると嬉しい」という要望を検討中です。『虹の森通信』は個々にコメントと写真が添えられ、「生き活きた表情が増えてきている」と喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等意見が出た時は随時行っている。	アイデアは専用ノートに綴り合いユニット会議の議題としています。個人面談は計画中ですが、気になる職員がいれば職場を離れて食事会を行い、一人で悩まないようサポートしチームワークに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を観察し、勤務意欲を把握している。 上司にも伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に全員参加されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、講演等参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とお話する機会を設けて、生活歴、習慣、要望などを確認させて頂き職員間で話し合いし安心して頂ける環境、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付時、面会時などにこれまでの家族の苦労や不安、要望などを確認させて頂き安心感を与えるよう又、家族の協力を得られるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面接によるアシストを基に本人の日頃の様子を観察し担当者、ケアマネ共に必要な支援を見極め家族、職員全員が把握するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の力に応じた作業を一緒に行うことで暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事は面会時、又は必要に応じては電話などでお知らせをさせて頂き家族様にも出来るだけ協力をして頂き共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活でよく利用していたスーパー、馴染みのある人と顔を合わせるような場所には出来る限り出向いている支援を行っています。また面会時は家族、本人の指示がない限りいつ誰が来ても面会可能で関係が途切れないよう支援しています。面会時間の定めがないため家人、友人、仕事帰りの面会も多く利用者様の話相手はつきません	読書好きな人は図書館通いをしたり、土に親しんだ人は畑仕事を継続しています。送迎付きで美容院を楽しんだり、得意だった絵手紙に再び取り組めるよう支援して作品へと完結した例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や感情の変化を理解した上で利用者同士のかかわり、又身体の不調がない限り、入居者皆さんとレクリエーションや談話を交えて利用者同士の関わりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了で終了になることが多いが偶然の出会いでは近況を伺うようなあいさつ程度になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを利用し、また本人や家族とお話する中で生活歴、思いを聞いてこの施設で可能な限り本人らしい生活を支援しています。またうまく表現できない本人にも表情や仕草から意向の把握に努めています。	センター方式の一部を利用して情報収集し、自宅を訪問して環境を把握しています。お茶の時間には好みの飲み物を、入浴時には着替えを自由に選べることによって自立心が促され個々の主張が聞かれるようになりました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の施設内の生活の見守りの中で入居者を観察し、現状の把握に努め家人、ケアマネージャーからの情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集を把握したうえで計画に反映させる能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をしいていて職員同士のミーティング時カンファレンスを行い介護計画を作成する。毎月モニタリングも行っている。プラン見直し時には書面にサインで家族同意を得ています。	ユニットごとのケアマネージャーがプランを作成し、3ヶ月に一度見直しを行っています。会議では担当者以外の意見も上がり反映されています。サービス内容はケアの内容がわかりやすく記載され標準化に役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、記録表を連動させ月1度のユニット会議時に職員間で情報を共有して介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した場合には、その都度対応し又、家族の状況を把握し必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で借りている畑作りを通して野菜や花を作り、育て、食したりして資源の大切さや育つ楽しみを見出すように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、以前のかかりつけ医共に、家族介助での受診を原則としていますが必要に応じて職員が支援しています。	本人からの希望に沿ってかかりつけ医を継続し、受診は基本的に家族にお願いしています。確実な診療のためにバイタルや経過記録を書面で渡し、発熱や状態変化は些細なことでも家族と連絡を取っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に対して身体上のことで気がついた事、具合が悪い場合は、すぐに家人に連絡させて頂き受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や地域連携室と情報の交換を行い、入院などした時は病院関係者、家族と相談しながら受け入れ出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院側、家族と話し合いを行い、利用者にとってよい方向性に進むように支援している。今後出来る範囲で重度化には対応していきたいとの考えも生まれてきています。	開所以来1件の看取りがありました。希望があれば看取りを行う方針に従い、受け入れの心構えを職員間で話し合った結果、本年度は期間を決めて研修会を実施しています。家族や医療の協力も含め体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてもマニュアル準備し、各職員のAED講習参加を位置づけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月には防災訓練を行い、毎回ではないが避難訓練を行っている。	消防署の指導を含め年2回の防災訓練を実施しています。AEDを設置し、夜間想定でも行いましたが、利用者も交えた訓練が課題となっています。地域防災訓練も定期的に行い、職員が参加しています。	AED設置に伴い、地域住民を交えた講習会の開催を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する尊敬を含めた言葉かけと、視線を合わせて言葉かけをすることを心掛け対応している。	新人研修の項目の中に接遇があります。穏やかな職員と柔和な利用者の様子から、法人理念に謳われている通りの一貫した姿勢が窺えます。呼称に「ちゃん、づけはなく、同性介助の要望にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う際、本人の意見を確認して進めるようにしている。 おやつや水分補給時に何種類か用意して選択してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を確認し希望に沿ったペースで生活出来るよう支援しこちら側でレクなどを計画した時は、声かけをして参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で決めることができる方は本人に決めて頂き、できない方は色合いや体調に合わせて服を選び身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切って頂いたり、食材を炒めて頂いたり食器を拭いて頂いたりしている。 味付けもおいしく頂けるように努力し、おやつ作りも職員と一緒にいるなどしている。	食材は外部からの配達ですが、畑で採れた野菜も取り入れて手作りしています。誕生会にはお赤飯などのリクエストに応じたり、ホットケーキミックスを使ったおやつやたこ焼き、お正月には餅やおはたきを楽しみます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食材の配達を契約している。水分をあまり好んで摂取しない方には、色々な飲み物を提供したり数回に分けて提供したりして1回の水分量を確認出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った口腔ケアを毎食後行っている。 定期的に歯科医が訪問していただき検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを時間別に(排泄の有無・失禁の有無)記入し、一人一人のパターンを把握し声かけ又は、トイレ誘導を行っている。日中、布パンツ+パットで対応している。	はき慣れてしまったリハパンの感覚から布パンツの快適さを思い出してもらえよう、担当職員ごとに消耗品の削減に努めた結果、家族から「一生懸命やってくれてありがとう」の声を得られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の食事量、水分量をチェックしている。便秘気味の方には、朝、冷水・乳製品を摂取して頂いている。処方薬をいただいている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要望があれば毎日入浴されている。週4日は入浴されており、利用者様の要望に応じて足浴、シャワー浴を行っている。	一日おきをめやすとしていますが、時間や回数にはできる限り要望に応え、入浴できない時は足浴しています。湯は一人ひとり張り替え、肌の弱い人には専用ボディソープやシャンプーが用意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事と入浴後、自由に過ごされ休息して頂いている。夜間も利用者様の意思で過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と現在飲んでいる薬を一覧表にしており、利用者様の状況に合わせて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が好きだったこと、できることを職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等日々の計画をたて実施している。	短時間でも季節を感じられるよう外気浴や散歩には毎日出かけています。図書館ではたくさん本を借りてきたり、スーパー、ドラッグストアなど思い立った買い物にも対応し、回転寿司やネオパーサでの外食やドライブと希望に沿った外出が叶っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、お小遣い程度もっていて買い物等の支払いもご本人様で行っている。 できない方は、職員が支払い、後日家人へ請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。 月1回家人へ近況報告として職員が手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒は毎日行っており、室温もその日の気候に合わせて対応している。 テーブルに花を飾ったりフロアに季節に合わせた壁画を貼っている。	壁面は絵手紙などの力作で彩られ、利用者同士の自然な会話が弾んでいることから共用空間の居心地の良さが感じられました。換気や清掃は一日三回実施し、フロアや手すり、キッチン周りはこまめな消毒を心がけ、チェックシートで確認しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのスペースの中でソファを用意し、くつろげる空間を提供している。 テレビも見やすい位置へ設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使って頂いており、居室内にも思い出の写真を貼っていつでも見れるようにしている。	思い出の大正琴や誇らしげに額に入れられた絵手紙の作品、壁いっぱい貼られた家族の写真からその人らしい暮らしが垣間見えます。加湿器を備え起床後は必ず換気を行い、布団は曜日で決めて干しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室内、廊下等手すりがついている。 トイレの場所がわかるようにトイレの前に大きな貼り紙を貼っている。		